

巻頭言

光周波数コムの応用展開へ……………小林洋平

解説

高分解能・高精度な光コム分光法とその応用…大久保章  
広帯域中赤外領域における光周波数コムとデュアル

コム分光……………吉井一倫  
デュアルコム分光技術の空間次元への展開

……………浅原彰文ほか  
デュアルコム・サニャック干渉計を用いた高精度な

表面弾性波の計測……………渡邊紳一  
低コヒーレンス光周波数コムを用いた機能的形状計測

システム……………塩田達俊  
フォーカス

光コム形状計測による産業課題への取り組み  
……………森本康友ほか

光学ハイライト

気になる論文コーナー

今後の特集予定

53巻 3号「応用の広がるフォトニック結晶レーザー」

53巻 4号「光学の美容皮膚科学への活用」

53巻 5号「社会実装が加速する深紫外光技術」

53巻 6号「2023年日本の光学研究」

53巻 7号「プラズモニクスの基礎科学と新展開」

本号では、錯視に関する特集を組ませていただきました。錯視と聞くと、デザインやエンターテインメントとして楽しむものと思う読者が多いかもしれません。しかし、錯視の研究は、私たちがものを見る仕組みを明らかにする重要な研究であり、その知見はディスプレイでの情報提示技術や画像処理技術、情報圧縮技術にも利用できます。パラパラ漫画を思い浮かべてみてください。一枚一枚の絵は静止画ですが、適当な時間間隔でめくってやれば、物理的には静止している絵の中のキャラクターが動画のように動いて見えるはずですが、これは人が外界の情報をそのまま見ているのではなく、解釈しながら見ている、知覚しているために起こります。錯視の研究を通じて、私たちの見る仕組みがわかればそれを利用して、効率よく情報の特徴を表現、誇張、弱めたりすることができます。本号では錯視の基礎となる考え方から錯視の応用まで、執筆者の方々に最新の錯視研究の知見について解説いただきました。専門性の高い内容も含まれますが、錯視図形を見て、体験するだけでも楽しめるような内容にもなっています。本特集によって読者の皆様の新しい研究展開の一助になればと願っております。

最後に、ご多用中にもかかわらず解説をご執筆くださいました著者の皆様、ならびに編集局、編集委員の皆様  
に厚く御礼申し上げます。(瀬谷、齋藤)

原著論文を募集しています

「光学」では、日本語の原著論文を募集しています。会員・非会員を問わず、自由に投稿できます。皆様の意欲的なご投稿をお待ちしております。

また、上記に加え、特集テーマに関連のある原著論文も募集しています。この場合、採択となった論文はその特集号に合わせて掲載できるよう、査読作業をより迅速化いたします。特集テーマ関連の投稿締切は、当該特集号発行月の4か月前の10日です。特集号を明記のうえご投稿ください。

日本光学会ホームページ <http://myOSJ.or.jp/>

光 学 2024 ©

第53巻 第1号 <月刊>

2024年1月10日 発行

定価 1,500円 (送料実費)

発行/ 一般社団法人 日本光学会

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-23-11

常光ビル 7F 有限会社学術新報社内

E-mail: [info@myOSJ.or.jp](mailto:info@myOSJ.or.jp)

印刷/ 大昭和印刷株式会社

「光 学」編集委員会

山本 裕紹*	芦原 聡**	内田 美幸	江川麻里子
岡野 誉之	小野 雅司	角田 英俊	金高 健二†
黒坂 剛孝	小泉 直也	齋藤 直洋	酒井 大輔
下垣 哲也	庄司 暁	鈴木 良政	瀬谷 安弘
田代 知範	堅 直也	玉田 洋介	張 開鋒
角井 泰之	中川 桂一	中村 友哉	日達 研一
藤井 瞬	藤村佳代子	堀切 智之	堀崎 遼一†
水谷 康弘	水野 洋輔	三宅 大助	本山 央人
森本 智英	安田 英紀	山中 真仁	

\*委員長 \*\*副委員長 †光科学及び光技術調査委員長

編集局 新沢佐和美

制作/ 有限会社学術新報社

電話 03-3816-3991 Fax 03-3816-3992

E-mail: [kogaku@academic-j.co.jp](mailto:kogaku@academic-j.co.jp)